

## 第 20 節 リウマチ膠原病科研修〔選択科向け研修〕

### 一般目標

各種の疼痛性疾患・発熱性疾患を適切に鑑別し、頻度の高いリウマチ・膠原病類縁疾患について、診断と治療の実臨床を経験する。

自己免疫疾患の基本的な病態生理を理解し、合理的な治療戦略をどのように策定するかについて、実際の症例を経験しながら学習する。

### 具体的目標

- ① 発熱性疾患を感染症・悪性腫瘍・薬剤アレルギーその他のカテゴリーと鑑別するための問診・身体診察を行い、結果を予想しながら検査計画を立てることができる。
- ② 関節所見(腫脹・圧痛・可動域の確認)の取り方を習熟する。関節穿刺が実施できる。
- ③ 関節炎を、急性単関節炎・急性多関節炎・慢性単関節炎・慢性多関節炎の 4 つに分類し、それぞれについて鑑別診断を述べることができる。
- ④ 関節リウマチの診断治療、特に早期診断の重要性や寛解導入目標、寛解の維持や予後について概説できる。
- ⑤ 各種自己抗体検査の臨床的意義について概説できる
- ⑥ 抗核抗体が陽性となる疾患(SLE/強皮症/シェーグレン症候群/炎症性筋疾患など)の診断と治療について概説できる。
- ⑦ 血管炎症候群・脊椎関節症・自己炎症症候群の診断治療について概説できる。
- ⑧ 小児や高齢者、妊孕性のある女性など、ライフステージごとのリウマチ性疾患管理の特徴について理解する。
- ⑨ 特定疾患申請や身体障害認定制度、介護保険制度など慢性疾患の療養を支える社会的な制度について理解する。

### 実臨床研修

- ① 入院患者の主治医として、診察、検査、カルテ記載、治療方針を決定し、患者本人や家族への説明を行う。
- ② 新患や救急患者の問診や身体診察、検査オーダーなど初期対応を行い、治療方針について上級医とディスカッションを行う。
- ③ 日本内科学会や日本リウマチ学会などが主催する学術集会に出席し、症例提示や臨床研究の発表を行う。

## 研修評価

- ① 指導医が日常診療を通じ、診療能力や理解度を形成的に評価する。
- ② 院内共通の評価様式に則り、総合評価を行う。

|    | 月                   | 火                      | 水                      | 木                      | 金                        | (土) | (日) |
|----|---------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------|-----|-----|
| 午前 | 朝カンファ<br>病棟回診<br>外来 | 朝カンファ<br>病棟回診<br>外来    | 朝カンファ<br>病棟回診<br>外来    | 朝カンファ<br>病棟回診<br>外来    | 朝カンファ<br>病棟回診<br>外来      |     |     |
| 午後 | 病棟回診<br>タカンファ       | 病棟回診<br>臨床検査部<br>タカンファ | 病棟回診<br>臨床検査部<br>タカンファ | 病棟回診<br>臨床検査部<br>タカンファ | 教育カンファ<br>臨床検査部<br>タカンファ |     |     |

外来は総合診療科、国際診療部、リウマチ膠原病内科の外来を含む

午後の臨床検査は微生物検査と心エコーの研修を含む